

市販薬の過剰摂取(オーバードーズ)にはしる子ども・若者たち その生きづらさを考える

日時 2025年4月12日【土】 14:00~16:00【オンライン開催】 参加費 無料

- 趣旨説明 折出健二(愛教大名誉教授)
- 市販薬の過剰摂取にはしる事例
・子どもたち、親たちから聞えてくる声
・大学生になってやっと出せた声
- 講演 子どもたちの生きづらさ
牧真吉先生

薬物を使うと聞くと、高校生や若者、おとなの問題と思われるでしょう。今や、小学生・中学生でもそれが起きています。市販薬の過剰摂取(OD オーバードーズ)です。

子どもたちの中で何が起きているのでしょうか。「ヘルプ」を言えずぐっと自分に押し込めているのではないかと。そして、自分のつらさ・苦しさ・不安をまぎらそうと(ゆがんだ)自己治療にはしているのではないかと。これを放置しておくと、希死念慮も強まるといわれます。

まずは、現場の実態を出し合うなかで、子ども・若者たちをケアするために何ができるか。専門ドクターのお話を聴いて、子どものそばにいて伴走する大人の役割を一緒に考えてみませんか。 折出健二

講師 牧真吉 (みどりの風南知多病院 精神科)

ODにはしる子ども・若者たちは、依存症などと同じで、うまく育ててもらえなかった子どもたちです。

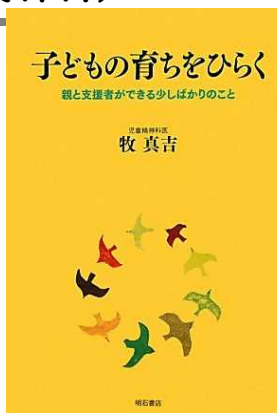
一生懸命訴えている行動で、周りとうまくコミュニケーションがとりにくい子どもたちです。`普通`に合わせるようにさせられて苦しめられています。

不登校になると`やったね`と誤ってしまいます。治すのではなく、どのようにして育っていない部分を育てていくかという発想が必要になります。

〈著書〉

「子どもの育ちをひらく—親と支援者ができる少しばかりのこと—」

「自閉症スペクトラムの子どもと「通じる関係」をつくる関わり方」



1年近く定期的に相談を続けてきた学生が、突然ODで苦しんでいることを告白しました。そこから、やっと中学時代からの生きづらさが見えてきました。

小島 俊樹

参加申し込み先あいち民研事務局

office@aichi-minken.sakura.ne.jp

※ Zoom 接続情報をお知らせします